

2021年 新入試 外部検定

大学入試英語成績提供システム 2020年度の導入を見送り 2024年度に導入、今後1年を目途に検討

旺文社 教育情報センター 2019年11月1日

2020年度に予定されていた、大学入試英語成績提供システムの導入が延期された。11月1日、萩生田文部科学大臣が記者会見で明らかにした。大学入試における新しい英語の試験は、2024年度に実施の試験から導入することとし、今後1年を目途に検討、結論を出すとした。

●大学入試英語成績提供システムの導入見送り

延期されたのは大学入試英語成績提供システム（以下、成績提供システム）の導入。大学入試センターが認定した民間の英語の資格・検定試験（以下、英語認定試験）を、大学入試で活用するためのシステムで、2020年度に行われる入試から導入が予定されていた。受験生は、受験する年度の4月から12月までの間に行われる英語認定試験を受検し、その成績を2回まで、大学入試に活用するというもの。受験生の成績は、成績提供システムを介して大学に提出される。大学は、出願資格として利用したり、共通テストの英語の得点に加点したりするなどの活用を予告していた。

●今後、とりわけ2021年入試については、各大学の「予告」の変更に要注視

2021年入試について多くの大学は、成績提供システム利用の有無、提出された成績の利用方法をはじめ、共通テストや個別試験で課す教科・科目を予告しており、配点まで予告している場合も少なくない。成績提供システム導入延期を受け、各大学は対応を迫られることとなる。今後、各大学から発表される「予告」の変更情報が、受験生には重要となる。

ここでひとつ留意したい点がある。英語の外部検定試験を入試で利用している大学は、既にある。今回の延期は成績提供システムの導入についてであり、各大学が独自に、英語の外部検定試験の成績を入試に利用すること自体までは意味していない。各大学からの「予告」の変更情報を確認する際には、この点にも注視が必要だ。